

参加者の抽選と構成

気候市民会議つくば実行委員会

1. 参加者の抽選

2023年の6月に、住民基本台帳から抽出した16歳以上の市民5,000名に案内状を発送し、1,146件の返信を受け取りました。そのうち、569名が参加を申し込み、153名が参加を迷っているとの回答でした。

案内状に対する申込数の割合は、11.38%(申込569/案内5,000)と、国内他地域での3%程度に比べると、非常に高いものでした。これは、(1)つくば市民の関心の高さ、(2)自治体版の気候市民会議の広がりが知られつつあることなどを背景に、(3)謝礼の金額の高さ、(4)提案をもれなく反映させる約束をしたこと、(5)市長からの呼びかけ文、(6)開封して読みたくなるデザインなどの工夫に加えて、(7)ゼロカーボンと住みよさの両立に向けて市民の取組みと市の施策の双方の転換を考えるとといったお題への関心、(8)本人の都合が悪い場合に家族の申込を認めたことや(9)参加に支援が必要な方はお気軽にご相談くださいとした配慮など、さまざまな要因が総合的に影響したものと考えています。

569名を対象に二段階目の抽出を行い、参加意思の最終確認を経て、50名の参加者を決定しました。市の縮図となる参加者を得るため、つくば市の性別、年齢層別、地区分類別の人口構成の割合および返信者全体の気候変動の問題への関心の程度の割合に合うように抽出しました。

詳しく知りたい方向け：

二段階目の抽出は、「可能な限り最も公平な選出アルゴリズム」として世界的に用いられている、くじ引き用のwebツールPanelotを用いて行いました。

https://panelot.org/compute_lottery

市の縮図となる条件を満たす50名の組合せが多数抽出されます。その中から乱数を用いて一組の結果を選びました。当選確率は平均で8.8%、属性的にもっともあたりにくい人で5.6%でした。

なお、年齢層別の縮図としては、全年齢層の人口割合をベースとして、16歳未満分8枠を10代~30代に2枠ずつ、40代~50代に1枠ずつ割り当て、80歳以上分3枠を70代以上に2枠、60代に1枠割りあてることにしました。

二段階目で抽出された方に参加意思の最終確認をし、辞退された方については再抽出を行い、50名の参加者を決定いたしました。

2. 参加者の構成について

図1は年齢構成、図2は地区構成です。一番内側が参加者、次が申込者、外側が市民全体で、それぞれの人数と構成割合を示しています。市の縮図となることを目指して参加者を抽出しました。申込者は40歳代や研究学園地区で多い傾向がありましたが、参加者の割合ではバランスを取っています。なお、参加者は70歳以上とまとめていますが80歳以上を含みます。既成市街地等は、荃崎、桜、大穂、谷田部、筑波、豊里です。

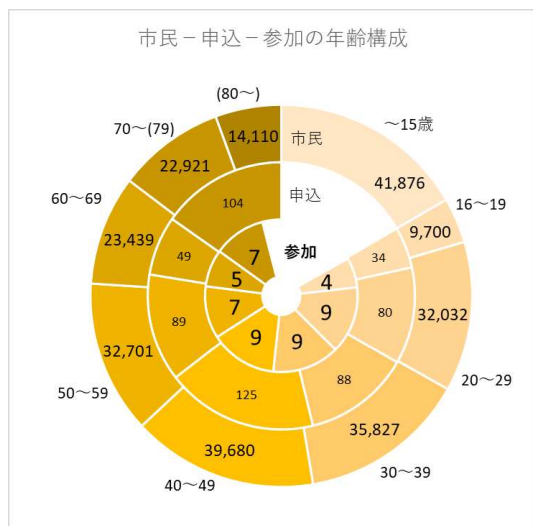


図1 年齢構成



図2 地区構成

図3は気候変動問題への関心についてのアンケート結果です。一番内側が参加者、次が申込者、外側は案内状への返信者1,146件全体の回答です。返信者全体の回答の割合にあうように参加者を抽出しました。申込者は「とても関心がある」が多い傾向がありましたが、参加者の割合ではバランスを取っています。

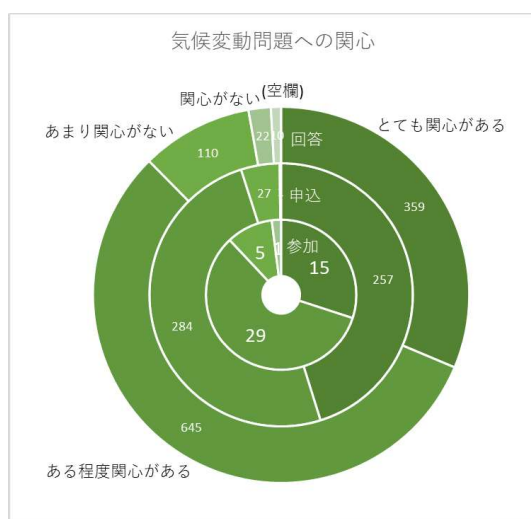


図3 気候変動への関心

図4はつくば市ゼロカーボンの実現可能性、図5はゼロカーボンの取り組みが生活の質に与える影響についてのアンケート結果です。一番内側が参加者、次が申込者、外側は案内状への返信者1,146件全体の回答です。参加者の抽出ではこの割合は考慮していません。結果として、参加者はゼロカーボンの「実現可能性が（極めて、どちらかと言え）乏しい」とする割合が回答者や申込者と比較して高くなりました。一方、参加者はゼロカーボンの取り組みが「生活の質を（どちらかと言え）おびやかす（可能性がある）」とする割合が回答者や申込者と比較して低く、「どちらとも言えない」の割合が高くなりました。

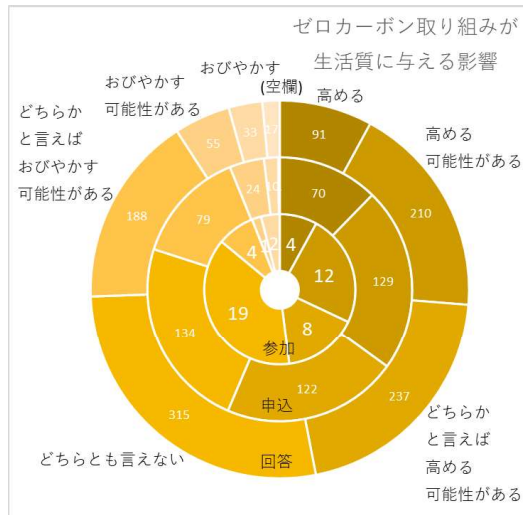
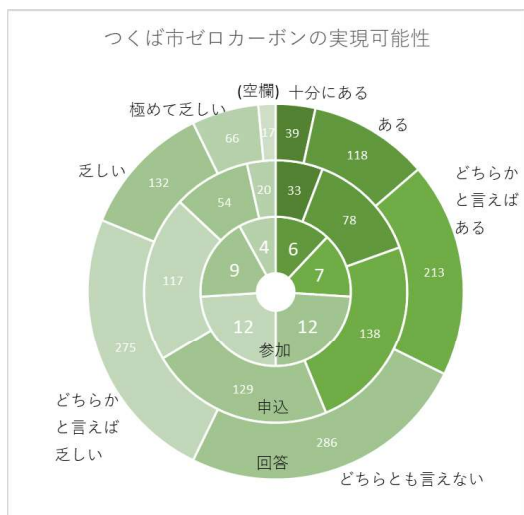


図4 つくば市ゼロカーボンの実現可能性

図5 取り組みが生活質に与える影響

以上